

14
46
57

本

全

勝

新
作
歌
り
歌



● 都々逸

○主はよび兵れしやがたをよま共御國へ盡す

○英じやないかい佛をいよなほふか盡さじやならぬ

○名でさへ東京死すと聞いて嬉しむしおしのむね

○の香に不淨を除去天津日さじの添ふた庭

○疵を受けを阿片の種を吹出す芥子坊主

○紳士紳商心に腹よ車夫で義捐の金を出す

○敵の彈丸なに貸ものぞ切て彼等の首を貸ふ

○渡韓しやんすも御國の爲よ私や女々敷泣はせぬ

○李鴻振てもた里が知れる馬鹿は始皇の遺傳症

○李鴻章とて其姿は繪にも書れぬ阿房面



○開ぬ黄海威力も盡きて今じや思案に沈む船
 ○花も美事よ香も高し支那へ廣げる菊畑
 ○陸じや浮足海では沈む負る軍は止に支那
 ○何の漢のと云はずにれ負け四百の直打もない支那さ
 ○漢で合めた意見も聞かずにや打て懲せよ大和杖
 ○初手に和勝つた談判じやないか手向ひするの支那による
 ○嘘ど泣のが上手な計りホントも手もない支那もない
 ○威海ね世話を日本に焼せ末は黄海するである
 ○日の照が餘り強さにアレ見苦しい枯て倒る、芥子の花
 ○奉天練軍毅字軍なせ、ホント名ばかり吳大猷
 ○今ど凱旋武名と共に輝く北京の日章旗
 ○神風が吹けを直飛ぶ塵葉勢も纏め兼たる苦左寶貴
 ○豊島おげ句の此失敗にやすこしは黄海支那の兵

○今更黄海先には立たず焚けを起して逃げる船
 ○主と別れの寸志のさかな豆でから粟さわり梨
 ●文句入り都々逸
 ○鉄砲かついで行く手に鈍り
 大日記 悲しさ隠す笑ひ顔随分な手柄功名して
 尼ヶ崎 主の歸國を待つわいな

●海晏寺かへ唄
 アノ見やしやんせ安城渡宇治の佐々木の先驅も及びないぞ
 ●緑かいな節
 國の爲には身命も投打つ日本の愛國者渡る朝鮮支那の國乘
 取る北京の城かいな

夜の夜中も軍人は道に斥候風紀衛符を焚いて嚴重に張るは
暗兵線かいな

● 同
堅く守りし平壤も難なく敗る日本兵手柄は重き分捕の箱に
數多の金塊な

● 同
威海旅順の砲臺も難なく打敗り進んで攻める海軍が乗
取る渤海灣かいな

● 最期豚々
李鴻章とてなど日本は怖い二度も三度も敗軍、ドント討ちや
威海衛も務微塵最期豚々く最期豚々く、最期鈍々ドーン

● 我が物のへ頃
馬鹿者と思へる哀れ支那の兵國の廣い處を鼻に懸けいよ攻め

行けハ豚の身の戦ひ鈍く智略なく負けては募る逃げ心實に
弱いぢやないかいな

● 花蘭をまぢく替唄
海にもはげしきたかひに敵兵の七ツのね船のしづむまで、
コチヤ我國海軍大勝利、コチヤエーく

● 同
敵の支那兵へいじやうにこもるともせむれを忽ち總くづれ、
コチヤ我國陸軍大勝利、コチヤエーく

● 同
いともかしてき御親征錦のみはたの御わくわうは清國はつ
ちくするまでも、コチヤ帝國萬歳大勝利、コチヤエーく

● 同
花蘭は支那のりてうしやう、日本にうたれて花色もまつさを

ダ、コナヤ討れて役目も取り剥れ、コナヤエー

● ヲツチヤ節

清國の兵士は餘ッ程馬鹿な奴、白旗押立て逃げやうチウて我身を生捕られ

● 同

日本の軍人餘ッ程強い者、貴州占領支那人敗亡平壤は滅茶

● 同

松崎大尉はナカク忠義もの御國の光りを見せたいチウて討死を遂げます

● 同

日本の臣民はナカクさつゝいもの軍費に幾干出したいたチウて衣類も賣りこかす

● 藝者の意氣地變調

日本の意氣地は余ッ程強いの、朝鮮國を助けるチユウてち

やんくをメツチヤ

支那の軍艦は余ッ程弱いの、錦の御旗にや敵はんチユウて

天津へ逃げて行く

支那の艦長は余ッ程弱いの、自分の命が危いチユウて軍か

んを差出す

大鳥公使は余ッ程わらいもの大和魂見せたいチユウて談判

をキツ

支那の袁世凱は余ッ程卑怯もの、大鳥公使に敵はんチユウて

天津へ逃げて行く

支那の兵隊は余ッ程悪い奴、自分の兵糧が足りないチユウて

牙山を喰ひ荒す

ちやんく坊主は余ッ程弱いの、牙山の陣所が守れんチユウ

てちりぢいりぱらぱら
 朝鮮の大院君は余ッ程なりの國の政治の直らんチユウ
 て閔族をメツチャク
 支那の李鴻章は余ッ程馬鹿しやげあ、日本と戦が出来ないチ
 ユウて天津で飲み明す
 ●三下り(色がわる)
 敵が居る承知で向ふ斥候も踏出すからは飽くまでも勝つて
 賞はにやならぬぞへ

●キソライライ節
 國の爲假令死骸は野に晒すども恥は晒さぬ日本膽、日々、下
 ソク、いゝいゝ戦争近來稀なる大勝利、日本軍人萬々歳で滅法
 界にエライ、愉快じやオマヘンカ

●同

金の爲つせひ集まるアノ豚尾兵攻めりや忽ち負け戦さ、ちき
 れ、ドソク、いかい敗れ、金穀兵器も捨て、逃げ、日本兵には叶
 はんゝいな、大筒棒の意氣地なし、支那兵弱いちやオマヘンカ

●權兵工の種蒔さかへ唄

支那人堅める牙山は亡びる、日本に一度も勝つ事出来ない、支
 那人く、トナヤチャン坊主
 向ふの軍艦眺めて見れば十七八艘、無暗に打たれる、何かは堪
 るか、二りうは棄て置き支那人く、トナヤチャン坊主

●名古屋じんく

今度このたび朝鮮事件に付て子一忠勇無双の我兵は敏捷く
 京城護衛して閔族をらを追ひ拂ひ獨立させたる勇ましさを
 こで清國狼狽し頻りに操り出す海陸の兵隊軍艦悉く木ッ葉
 微塵に撃ち破り日の丸國旗を翻へし武威を世界に輝かす之

れ予日本のエーエ名譽なる予

●紀伊の國かへうた

安藝の國は、廣島の城内に置かせ玉へる大本營支那兵討てど
の詔旨、扱て唐國に至りては、野津の中將や大島が号令に兵卒
鐵砲を擔ぐは國のため、君のため、撃ち出しや逃げ出す支那の
兵、さしづめ今度は大勝利、ヤソノ坊主、ヤソノ坊主、日本兵は
眞先、薩張り詰らぬ支那兵の陣屋に進み入り首を落せば芥
子坊主

●我もの替へ歌

我ものと思をうれし支那の土地、國の御旗を先に立て攻め取
り行け、日本の本の太刀風寒く、豚尾なく逃ぐるに早き敵のや
つはんにいくぢがないぬいな

●淺くとも替へ歌

かしこくも強きはまれ、日本の國、ゆくてあまたの清兵を除い
てきたれます、すらをよ支那が欲しうはないかいな

●退軍の歌

逃げよ逃げよ 皆共に
日本は素敵に強い國
強いと弱い、が戦へを
命とられちや堪らない
恥も外聞も入るものか

其二

逃げよ逃げよ 皆共に
縦ひ弱いと云はりようが
日本人には叶はない
腰ぬけ兵士と笑はりよが
首を切られちや命なし

若しも命のない時は
鉄砲で打たれぬ其中に

其三

逃よ逃げく皆共に
元我々も出て来たは
ホノの些細な日當で
國の爲とは何の事
今更云ふても無駄なれを

其四

逃げよ逃げくみな共に
給金渡らず銭はなし
れ負に前は敵なるぞ
こんな馬鹿氣た事はない

何の楽しみもあるべきや
人に構はず逃げるべし

スコタラロイヤサとわけ出せよ
命を捨てる爲ならず
云は、人足同様ぞ
夫ぢや約束違ひなり
何でも構はず逃げるべし

スコタラロイヤサと駈け出せよ
物をも食はずに腹へらし
ウカくして居りや首コロリ
こんな詰らぬ事はない

何處の何兵衛に義理やある

命のある中にけるべし

其五

逃げよ逃げく皆共に
我はちやんく先方は
殊に鉄砲も上手なり
逆も我等の瘦腕で
苦しい思ひをせぬ中に

スコタラロイヤサとわけ出せよ
天下晴ての人間ぞ
殊に刀も切れるなり
日本に勝やう筈はなし
逸足早く逃げるべし

●日清洒落誤文章

夫れ日清事件の浮沈なる争を情々観するに大凡はかなきも
のは今度清國の軍配始終幻の如くなる一事なりされば開戦
以來未だ日軍の不利ありしことを聞かす一省突き易し今に
至りて彼に百將の形隊を保つべきや今日や軍議明日や進軍
ぞ肝膽を摧くと雖も始終其効なく何れ先立つ清兵は日軍の

彈雨の爲めに露の命を落すと謂へりされを朝には黃旗を揚
 げて叱咤するも夕には只白旗を樹つるに至れり既に無常の
 大砲發しぬれば乃ち海陸二つの要害も撃搥し一つの嘆息と
 共に紅顏忽ち變じて土の如く豚尾辨髮の裝を失ひぬる時は
 四百餘州の人々集りて歎き悲めども更に其甲斐あるべから
 ず扱しもあるべきことならねばとて野外に操出し夜半に煙
 を騰げぬれば日兵來り襲ひ怒むべき彈丸に中てられて唯だ
 白骨のみぞ残り憐れと云ふもなほ愚なりされを北京の
 一大危機に瀕めること老幼走卒も知る所なれを清國の人民
 たるもの早く萬國公通の道理を悟り國家の一大事を心に懸
 けて日軍に降伏し早く清國の塗炭を援ひて國樂に往生すべ
 きものなり穴贖く

彈雨の爲めに露の命を落すと謂へりされを朝には黃旗を揚
 げて叱咤するも夕には只白旗を樹つるに至れり既に無常の
 大砲發しぬれば乃ち海陸二つの要害も撃墜し一つの嘆息と
 共に紅顏忽ち變じて土の如く豚尾瓣髮の裝を失ひぬる時は
 四百餘州の人々集りて歎き悲めども更に其甲斐あるべから
 ず扱しもあるべきことならねばとて野外に操出し夜半に煙
 を騰げぬれば日兵來り襲ひ怒むべき彈丸に中てられて唯だ
 白骨のみぞ残り憐れと云ふもななく愚なりされを北京の
 一大危機に瀕めること老幼走卒も知る所なれを清國の人民
 たるもの早く萬國公通の道理を悟り國家の一大事を心に懸
 けて日軍に降伏し早く清國の塗炭を援ひて國樂に往生すべ
 きものなり穴賢く

明治廿七年十一月十日印刷
 全 年 全 月 全 日 刊 行
 全 年 全 月 全 日 刊 行

(實價三錢)

編輯人

大本源之助

發行所

土居四郎

印刷所

山陽活版所

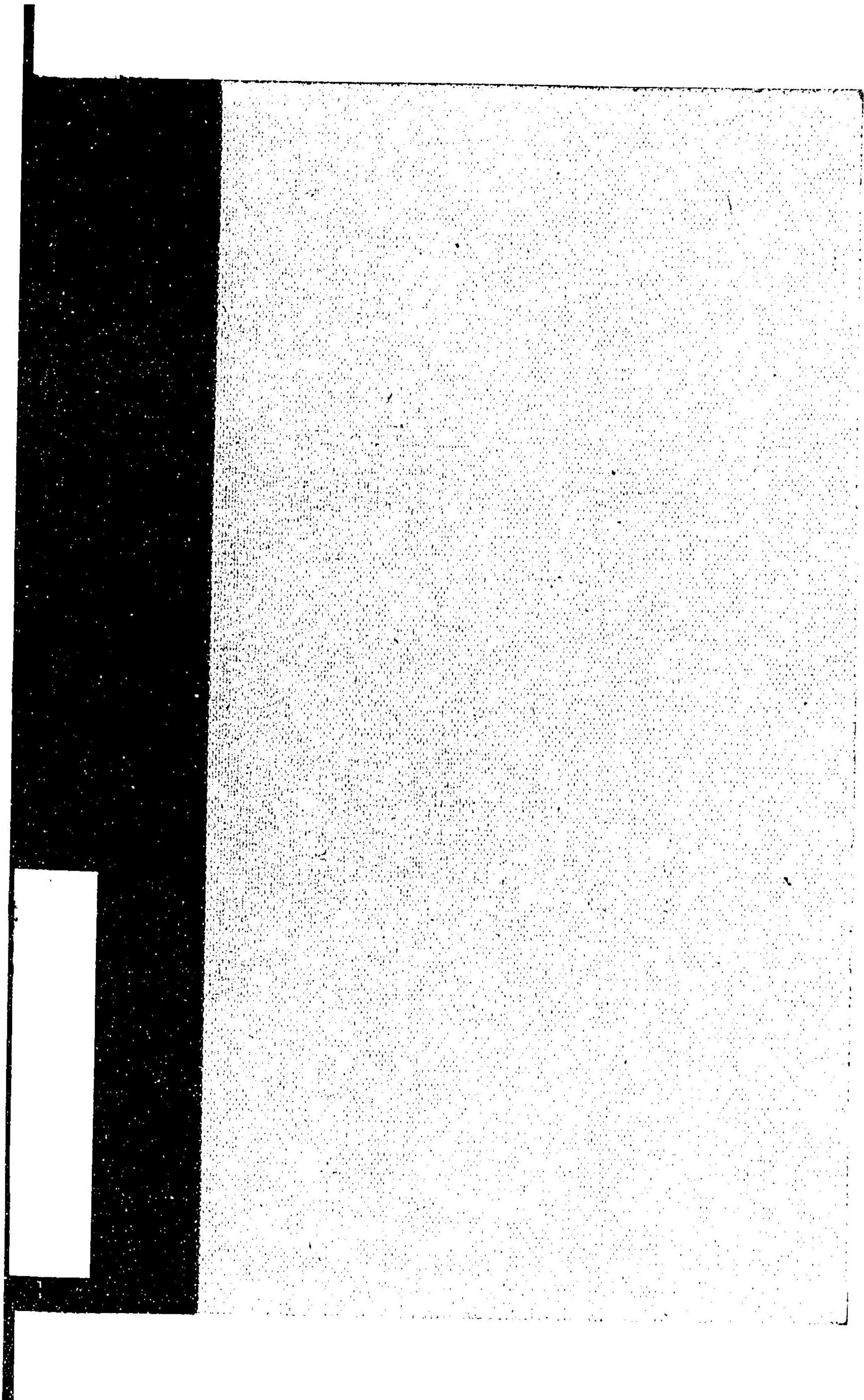
廣島市宇大手町五丁目百六十番邸

廣島市宇天神町十六番邸

全南全町全番邸









074398-000-5

特20-332

日清事件新作はやり歌

大本 源之助/編

M27

CEI-1650

